

令和元年度 四ツ葉園事業報告

1 全般的事項

個別支援計画を計画的に実行し、特に利用者と職員がふれあう機会に重点を置き、関係性の向上をテーマに取り組みました。

2 各事業実施状況

(1) 施設入所支援

① 利用者支援

1年間、利用者と職員の関係性の向上を目指し、利用者の個性やライフステージに合わせ共に実施することを重要課題として取り組みました。利用者個々に合わせた関わりや、方法や内容を工夫し実施することにより以下の効果があった。

《利用者》

- ・個別支援の深まりが、職員に視線を送る、うなづく、言葉が増えるなど変化が伺えた。また、職員も感情の表出に気づき、個別支援の大切さを学んだ。
- ・言葉の情報以外に、視覚的に配慮することで社会生活に安心感を提供できた。

《職員》

- ・障害特性の知識を深めることにつながり、仕事に自信がついた。
- ・関わりを深めることで、利用者の個性や強みに気づくことができた。

《主な取り組み》

- ・余暇支援、買い物外出、訪問販売利用、墓参り、老人施設母親面会、近隣公園散策

② 安全・安心な暮らし

- ・リスクマネジメント研修に1名が参加し、参加職員を中心に職員全体で「ひやりはつと」事案を見過ごさず、報告数が昨年比約8%アップすることができた。
- ・福祉避難施設として、太陽光パネル、蓄電設備を導入、体育館の照明をLEDに変更し、災害時に自動運転切り替え可能設備機能を確保した。

(2) 生活介護

日中活動

① 作業グループ

- ・椎茸栽培4年目となり、作業グループのメンバーで椎茸用原木約200本に菌打ちを行った。手芸班のメンバーで交通安全マスコット80個を作成し、警察署員、協会員と実際の通行車両運転手に直接手渡しして配り、秋の交通安全を呼びかけた。(9/24)

② 療育グループ

- ・高齢者の方の活動の充実を目標に取り組みました。滑川医療福祉専門学校から作業療法士を招き(年3回)、活動意欲の向上をテーマに、レクリエーション活動を中心として取り組んだ。活動の雰囲気を感じ取る人、点数制にすることで意欲が表出する人それぞれの参加方法を尊重した。

3 共通支援事項

(1) 健康管理・給食

- ・9/6～9/24 感染性胃腸炎の感染者が利用者23名 初期対応方法に原因が確認されたため直ちに嘔吐物処理方法等を改善した。
- ・新型コロナウイルスの国内発生による対応の実施（3/5～3/31 以降も継続中）

(2) 地域交流・ボランティア

- ・納涼祭や園祭では、上市町社会福祉協議会を通してボランティア団体の協力を得ました。また、上市町小中高生ボランティアスクール（7/29.30）、福祉ふれあいフェスティバル（10/26）にステージ発表するなど、様々な団体・人とのふれあい、交流を深めた。
- ・学生ボランティアの募集を継続しました。7学校に募集を働きかけ、納涼祭や園祭でのボランティア活動の場を提供し、将来の人材確保に取り組みました。（延べ17人の学生がボランティア活動に参加）

(3) 職員研修・人材育成

- ・自発的に音楽療法士（初級）2名、食品衛生管理者1名、自動車中型免許1名が資格を取得しました。法人の助成制度を活用し、キャリアアップすることに結びついた。
- ・強度行動障害研修（基礎・実践）に受講した職員を中心に、勉強会、ケース会議をそれぞれ月1回実施した。さらに職員全体の知識や技術の向上が必要。

4 今後の課題

(1) 人材の確保と定着

- ・支援員、調理員の人材確保、離職防止。
- ・新年度に、新規採用職員が4名配属されたことから、OJT（担当職員を中心に職場内研修）を中心に、教育と新しい環境への戸惑いなどに傾聴し、安心して職場に定着できるような関係づくりが求められる。

(2) 働き方改革

- ・法律に則り、全職員が年休5日以上の取得を達成しました。また、今後は、勤怠システムを活用し、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を保つことと、仕事の効率化が求められる。

(3) 新型コロナウイルス

- ・「かからない」「もちこまない」「ひろげない」を念頭に利用者への感染がないように施設全体で感染防止の対策が重要で、保護者の理解、職員の感染防止意識、行政機関との連携が望まれます。引き続き、政府、県からの通達や情報に注視して適切な対応策を講じる必要があります。

令和元年度 新川会地域生活相談室 事業報告

1 全般的事項

地域で暮らしている障害者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行いました。

2 計画相談

計画相談支援	411件	(成人 299件)	児童 112件)	前年度 407件
新規	52件	(成人 23件)	児童 29件)	
モニタリング	326件	(成人 292件)	児童 34件)	前年度 232件

- ① サービス等利用計画の作成の更新（新規）の時期（3月）に集中、そのため半年後に行うモニタリングの時期が9月に集中するため、3月更新時から（滑川は4月）誕生日で更新に切り替えていくこととなった。
- ② 滑川・中新川圏域に相談支援事業所が2ヶ所しかないため、特に障害児相談は集中しやすく、発達障害児の放課後等デイサービス利用に係る相談が増えている。事業所数が限られるためサービス調整を行っている。
- ③ 一人の相談支援専門員の抱える担当件数が設定され、またモニタリング実施標準期間の見直しによりモニタリング頻度が高まった。そのため、相談支援専門員の担当件数を計画的に分担して行った。

3 一般相談

- ① 家庭での問題行動がエスカレートし対応困難なケース、保護者の入院や認知症の発症等家庭状況の変化により問題が発生したケース等、緊急的に介入せざるを得ないケースが増えている。
- ② 生活環境が不衛生等であったり修理が必要な場合、相談室で対応したり、業者への取り次ぎを行った。
- ③ 介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。
- ④ 「地域生活支援拠点」のニーズ調査で訪問し、計画相談につなげた事例があった。

4 障害児相談

- ① 保育所入所前の子育てサークル等から依頼を受け、ミュージック・ケアを実施（5カ所8回）
- ② 「星の子サークル」（立山町）のサークル活動を支援（習字、絵画、トランポリン、クリスマス会）

5 その他

① 権利擁護

- ・成年後見制度の利用に係る相談やすでに成年後見制度を利用しているケースは、定期的に後見人に報告や情報交換を行った。
- ・障害年金、療育手帳等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

② 地域ネットワークの構築

- ・障害者地域自立支援協議会への参画

「滑川・中新川地域障害者自立支援協議会」の各部会活動において、困難事例の問題解決のための検討を行い地域課題の抽出、共有をした。そのなかで、地域で暮らしている障害者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めた。

- ・地域交流と社会啓発

地域の障害者の交流活動やイベントに参画し、障害者への理解を促進する啓発活動に協力した。

- ③ 医療的ケアが必要な障害者の地域移行のケースでは、中新川圏域で初めて重度訪問介護の支給決定に係る計画相談を行った。

④ 富山県自立支援協議会相談部会「研修ワーキンググループ」への参加協力

- ・相談支援体制の整備と人材育成のための相談支援従事者研修において、ワーキンググループの構成員として参加し、相談支援に携わる者のネットワークの構築に努めた。

令和元年度 新川会グループホーム 事業報告

1 全般的事項

令和元年度より共同生活支援室として専任職員配置となり、より細やかな支援を目標に、職員の訪問回数を増やし年間を通して週5回以上の訪問が実施できました。

2 各施設の実施状況（経過）

① 利用者の動向

令和2年1月に退去利用者1名（第2つつみだにの家、糖尿病罹患し入院、退院後は医療体制の整ったところでの生活が必要と医師からのアドバイスを受け四ツ葉園に入所）
令和2年3月に新規利用者2名（まえざわの家1名、かわはらだの家1名）

② 防災について

全利用者、平成31年4月に上市町、立山町に災害時要援護者登録し地域での見守りを要請し、避難訓練を年2回実施した。6月には災害時避難訓練とし非常時持ち出し袋を整備

③ 地域生活について

令和2年1月、つつみだにの家利用者1名が就職
他一般就労の2名についても、職場での様子伺等情報交換を行った。

④ 高齢利用者対応

65歳以上6名の今後の生活をどう支えていくかを、担当市町村、関係機関と連携をとりながら検討を継続。新たに令和2年1月に高齢利用者1名が日中活動の場を「工房よつば」から富山型デイサービス「むらのなか」に移行し、前年度から利用の方も含め現在4名が利用中。

⑤ 活動内容

4棟のグループホームを日常生活、社会生活歴及び社会的な生活能力に応じて2つのタイプに区分して支援を行った。

・つつみだにの家、第2つつみだにの家では、休日の日中に生活支援員（バックアップ施設職員）を配置し、必要な支援を継続した。地域住民としての意識を育む取り組みとして平成31年4月より、休日の昼食の買い物を地域のスーパーで利用者と職員とで行った。また月に1回地域の絵画教室に通い作品を製し上市町文化祭や障害者作品展に出展。

10月には上市町駅伝大会にも参加。

・第2つつみだにの家では、帰省や家族への思いや生活の不満からと思われる同一利用者の無届外出が3回（4月、5月、7月）あった。本人の不安や思いをくみ取っていくために、原因を分析し、本人の特性を理解するために世話人とも勉強会を行った。

・まえざわの家、かわはらだの家では、日常生活（休日を含む）は本人の選択（外出、昼食等）に委ねており、散髪や日用品の買い物、友人との外出を行っている。スポーツ教室（まえざわの家2名）や、詩吟教室（かわはらだの家2名）へ継続参加している。かわはらだの家の利用者のうち1名は、無届外出の傾向があるため休日の日中はつつみだにの家で

の支援を継続、令和元年度は無届外出0回。

・グループホーム全体行事として、新年会を行い、利用者、世話人、職員が参加し親睦を深めた。

⑥ 研修会

世話人との定期打合せ（4棟毎に毎月開催）

利用者一人ひとりの自立の程度や状況について、世話人との話し合いにより、一貫した関わりを続けられるように努めた。

世話人に向け、事業所内研修を実施（令和元年9月 知的障害、自閉症、発達障害への理解について）

⑦ 健康への支援

定期健康診断、歯科検診、インフルエンザ予防接種の実施。

加齢、皮膚疾患、歯科治療もあり、通院回数は増えている。

令和元年9月にインフルエンザ罹患者が出たが、早急に支援体制を整え対応にあたり、利用者にも支援者にも二巡目の罹患者は出なかった。（インフルエンザ診断者は、つつみだにの家2名、第2つつみだにの家1名）朝、夕食の献立について、栄養士から助言を受けた。

⑧ 個別支援計画

利用者主体の支援が提供できる様、モニタリング時には個別の話し合いを設け、支援への満足度やニーズを伺った。

⑨ 家族との連携

家族との関係が希薄である等の事情を抱えるケースもあり、家族との連携は取りづらい点もあるが、本人が家族を思う気持ちを汲みながら支援した。

3 成果と課題

① 共同生活と自己管理

・地域での生活が意識できる様に、また共同生活を通して役割と責任感をもてるよう、生活の主体者としての整理整頓等の自己管理、金銭管理への支援を行ってきたが、意識には個人差があり、一人ひとりに応じての声かけや励ましが今後必要。

② つつみだに・第2つつみだにの家における休日・余暇の支援

・晴れた日は家庭菜園、除草、散策（運動公園、フライングディスクの練習）に誘う。ただし散策では若年者と高齢者でのペースの違いが顕著になってきて、安全面を考慮すると支援者ひとりでは難しい面が出てきている。

・余暇時間は個人の趣味（読書、編み物、写経）の活動となるため、今後も興味、関心を引き出す働きかけが必要。

・計画的に外出の機会の設定（地域イベント参加・季節の会食・散髪やショッピング等）をした。内容や回数は今後も利用者と共に検討していく。

③ 毎月の世話人との打合せでは、各ホームでの様子を伺い対応すると共に、世話人へ障害者支援に必要な倫理や知識を伝えてきた。今後も共に支援するものとして伝えていかな

くはならないことが多く課題を残している。

4 今後の課題

- ① 共同生活の中で、一人一人が生活の主体者としての意識、自覚を持ち、意欲や自信を育むことができるよう支援していく。
 - ・個別支援計画作成にあたり、本人との話し合いの充実を図る。
 - ・加齢に伴う健康への配慮、生活スタイルの変化を支援していく。
- ② 共生社会の実現に向け地域での生活を意識した支援を行い、利用者の生活を支える世話人との連携に努める。
 - ・居住地区とのコミュニティーを深めていく。絵画教室の地域開放（3回/年）
- ③ 利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービス提供に努める。
 - ・職員、世話人の専門性が高まるよう、普段から支援について話し合ったり、外部研修への参加を勧め、自己研鑽に努め、お互いが組織の一員として連携して支援していく。
- ④ グループホームからアパートや公営住宅への移行希望の利用者に対し、見守り体制を維持しながら、本人の望む生活に近づけるよう支援継続の体制づくり。

令和元年度 雷鳥苑事業報告

1 全般的事項

地域で生活する知的障がい者に、日中活動とふれあいの場を提供するとともに、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育めるように支援を行いました。

2 各事業の実施状況（経過）

（1）生活介護

- ・ペットボトルの分別とプレス（立山町受託）F社（ダンボール組み立て）を主として活動に取り組みました。生活介護利用者全員が生産活動に取り組むことができ、夏季、冬季ともに15名全員に賞与を支給することができた。
- ・F社（ダンボール組み立て）の受託作業では、1年を通し定期的に納入があり継続的に取り組むことができました。納入数が合わず、搬入時の確認を徹底した。
- ・熊の出没情報が多く聞かれ、散歩に出かける機会が少なくなり利用者にも残念がる様子がみられた。

（2）就労継続支援B型

- ・A社（野菜加工）及びH社（パンフレットの差し込み）の受託作業を中心に畑作活動にも力を入れて行った。
- ・畑作業では、ニンニクの収穫量が70kgあり、そのうちの約20kg（800球）をタネとして11月に植付けを行いました。購入分も合わせ1,500球の植付けを行った。目標を2,000球としていたが、収穫後の管理が上手くいかずタネとして使用できず、植付けの数を1,500球に減らした。

ラベンダー栽培では、100kgの花を収穫し、乾燥（24kg）しました。乾燥は機械だけでは追い付かず、室内に吊り下げる等工夫した。乾燥したものは、香り袋やリースなど花を使用した作品作りを行った。また乾燥後の保管でも風通しを良くする等の対応が必要。

畑の活動は楽しみにしておられる利用者も多く、畝づくり、苗植え、収穫と一連の流れを理解し取り組むことができた。利用者から次の工程や活動について話をされる機会が多くなった。

（3）その他

① 地域交流

- ・夏まつりや雷鳥苑祭行事には地域のボランティア団体（2団体・15名）や学生ボランティア（3名）の参加協力を得ることができた。
- ・立山町社会福祉協議会や立山町赤十字奉仕団などを通し町内の小学生（2校 23名）と七夕づくりやミュージックケアまた太鼓演奏の披露などをして交流を深めた。

② 保護者との連携

- ・毎日の連絡帳でのやり取りや、電話連絡を通し保護者との連携に努めた。
特に欠席が長く続いた方については、定期的な電話連絡や自宅への訪問を実施し、状態の確認や、登苑への促しを行った。

③ 職員研修

- ・職員のスキル向上及びサービスの質の向上を図るため法人内研修（キャリアパス対応）や、福祉協会等の研修会に参加し自己研鑽に努めた。
外部研修：強度行動障害支援者研修（初任、実践） 1名 食品衛生責任者講習 1名 フォークリフト講習 1名
内部研修：個別支援計画作成について、虐待防止研修

3 今後の課題

(1) 農福連携事業

- ・法人全体でのラベンダー栽培に継続して取り組む。夏場の水管理を徹底する。
収穫した花を使用した作品作りも他の事業所と連携を取っていく。
- ・熊の出没に関する情報収集、鈴やラジオなどを使用した熊対策で安全に活動できるようにする。

(2) 自主製品づくり

- ・ニンニクの保存、管理を行い、タネや加工用として使用する分の確保
- ・黒ニンニクなど、販売時の表示方法
- ・唐辛子を使った商品の試作、販売

(3) その他

- ・新規に利用する方を含めた生活介護利用者の安心できる活動場所づくり
- ・就労継続では作業場変更に伴う搬入搬出の流れや活動状況の把握に努め、安全な環境づくりに配慮する。

令和元年度 さつき苑事業報告

1 全般的事項

利用者一人ひとりの特性を把握し、日々の作業や活動が楽しく元気に取り組めるよう努め、充実感が味わえるよう支援しました。

2 各事業の実施状況（経過）

（1）生活介護

① 活動状況

- ・天候に応じて活動を車庫内で行うことで、気持ちを切りかえて取り組むことができた。
- ・散歩やグラウンドでの歩行等、戸外での活動をとおして情緒の安定と体力づくりに努めた。
- ・ラベンダーの花折りをを行い製品として販売される喜びが味わえるよう支援した
- ・木工製品に力を入れ、国会議事堂にて継続して販売されている。

② 活動の評価（成果）等

- ・行動障害の利用者に対し男性職員が終日対応することで、日課に沿った活動に参加することができた。
- ・国会議事堂での木工コースターセットを販売し、その際にでる木くずを利用し「ひのきの香り」として販売し130セットの売り上げがあった。

③ 今後（次年度）の課題

- ・行動障害や自閉的傾向の利用者の構造化をはかり、落ちついて作業に取り組める環境を作ることが必要。
- ・糸鋸作業の技術向上をめざし、一連の工程を多くの利用者が行えるようにする。
- ・引き続き、一人ひとりにあわせた運動量の確保をめざし健康的な生活を送れるよう支援する。

（2）就労継続支援B型

① 活動状況

- ・T社の受託作業を中心に正確さを重点に集中して取り組んだ。
- ・よもぎや当帰葉、ラベンダー、トウモロコシの栽培、よもぎの採集し入浴雑貨の制作に取り組んだ。

② 活動の評価

- ・受託作業以外にもラベンダーの花折りや茎切り等、時間をもてあますことなく作業に取り組んだ。
- ・急な受託作業の要望にも利用者の配置や時間を配慮することで期日に納品することができた。
- ・朝礼では意識的に身だしなみを整えられるよう働きかけた。

③ 今後（次年度）の課題

- ・入浴雑貨のラベンダーやよもぎの安定した量を確保する。
- ・受託作業や入浴雑貨以外の自主製品の開拓。

(3) 共通領域と内容

① 身近生活の自立と支援

- ・当番活動を通してさまざまな場面で自分の思いを伝え、自主的に行動できるよう配慮した。
- ・できる部分は利用者の力で行えるよう見守り、必要に応じて介助した。

② 健康管理と健康指導

- ・月1回の健康相談では、運動の必要性や食事量のアドバイスを受け、家庭への協力を求めることができた。
- ・手洗いや手指の消毒を行い、風邪等の症状がみられた場合には検温やマスクの着用を促し、感染拡大とならないよう努めた。

③ 食事・給食

- ・四ツ葉園より給食を運搬 26名が給食を利用
- ・偏食が多い利用者や食事のマナーについてわかりやすく声をかけ、楽しい食事時間になるよう配慮した。

④ 地域行事への参加

- ・地域の行事（ふれあいウォーキングやふれあいフェスティバル）や公民館イベントに積極的参加し、製品の販売やポップコーン等の販売を行った。

⑤ 安全な環境づくり

- ・建物施設内外の点検を定期的に行い、保護者会とも協力し苑周辺の環境整備に努めた。
- ・グループ別に消防計画のもと通報、避難訓練を実施した。（5月・11月）

⑥ 家族との連携

- ・保護者懇談会や連絡帳、送迎時に保護者と話し合い、家族や本人の思いを知ることで新しい発見や支援方法を検討することができた。
- ・毎月の便り（さつき苑たより）を通して施設の情報提供を行った。

⑦ サービスの質の向上

職員研修

強度行動障害従事者研修への参加

虐待防止研修

自閉症セミナー

工賃向上研修 実践報告

令和元年度 つつじ苑事業報告

1 全般的事項

利用者の障害の状況、能力、興味や本人のおもいに寄り添いながら活動場面の提供に努め楽しく、充実した日々が過ごせるよう支援しました。

2 各事業の実施状況

(1) 生活介護

① 活動状況

- 創作的活動** 古新聞や紙粘土を活用し置物づくり（だるま、干支）を行った。
成果として制作の過程において一人ひとり役割を持ってもらい責任をもってやり遂げることができた。
牛乳パックを利用してコースター作りを行いつつじ苑祭の「tsutsuji Café」で使用した。
- 生産活動** 手芸品作りの工程の一過程を担い製品を完成させ販売を行った。
プランターでミニトマト、きゅうりを栽培し昼食時サラダパーティーを行った。
新聞販売所より付録の袋詰めをして収入を得た。
- 機能訓練** 毎日の日課の中で天候が良い時は、行田公園内でのウォーキング、天候が良くない日は、社会福祉センター2階を使用してバランスボールエクササイズ、トランポビクスを行った。

② 活動の成果

プランターでの野菜の栽培について苗植えも全員で行い水管理は、当番を決め行った。自分の役割を意識して責任を持って取り組んだ。
令和元年度からバランスボールやトランポリンを用いてエクササイズを行った。腰や膝に負担が少なく好きな音楽に合わせてエクササイズを行うことによって無理なく汗をかいてバランス感覚を養えることがあげられるが気持ちよく楽しく行えることが最大の効果といえる。

③ 今後の課題

プランターでの野菜作りは継続して取り組む。
トランポリンやバランスボールを用いたエクササイズについて心身共にリフレッシュだけではなく身体的効果を意識したプログラムを構築して取り組む。

(2) 就労継続支援B型

① 活動状況

Y社(ナットさし)、T社(製品のランナー折り)、S社(タオル伸ばし)、F社(海産物商品のパッケージシール貼り)などの受託作業と滑川市からの地下道清掃作業を中心に行った。
男性利用者から一般就労の希望があり関係機関と連携してチャレンジトレーニング、

トライアル雇用を実施した。

男性利用者が体験利用からA型事業所へ移行した。

② 活動の成果

前年度利用者の一般就労先のD社からタオル伸ばしの仕事依頼があった。

チャレンジトレーニングからトライアル雇用を経て一般就労に繋がらなかったが、会社からパートでの雇用の打診があった。

③ 今後の課題

収入減について

全体売り上げが昨年度と比較して約10万円減となった。原因として特にT社のランナー折りの仕事量が減少し収入にも影響が出た。

一般就労に繋がったD社よりタオル伸ばしの仕事が取引先となった。丁寧な仕事を行い仕事量を増やしてもらえるように努めていく。

令和2年度にも一般就労やA型事業所を希望している方がおられ新川会地域連携室、障害者生活就業支援センターやハローワークなどの関係機関と連携して行っていく。

(3) 共通事項

① ブルーベリー栽培

前年度の4月よりブルーベリーの苗木を70本購入しブルーベリー栽培を専門に行っている方より指導を受けながら栽培方法を教わった。今年度は約10kgの収穫があった。

② 畑作業

畑作業でじゃがいもやさつまいもを栽培し、調理実習の材料やつつじ苑祭において、焼き芋にして無料配布した。

③ 商品販売

利用者がつつじ苑祭、滑川市福祉大会、障害者週間での販売に携わった。

前年度よりどんどん焼き販売を本格的に行い新川会各事業所のイベントに利用者とともに参加し販売を行った。

ブルーベリーは約10kgの収穫量がありジャム作りを行い新川会イベントでの試食会やつつじ苑祭でジャム販売を行ったり、色々な果物(ブルーベリー、リンゴ、キュウイ、いちじく)を用いてジャムパーティーも行った。

④ 交通安全啓発活動

12月13日ショッピングセンターエールにおいて利用者が手作りしたビーズストラップ交通安全、防犯啓発活動にて配布を行った。

⑤ 思いやりの木を満開にする

自分の思いや今の気持ちを花びらに書き掲示した。花びらに書くことで心境を確認できたことがよかった。

令和元年度 工房よつば事業報告

1 全般的事項

働く喜びと自立への意欲につながるよう、生産活動及び自主製品の製作を通して支援を行った。1名、一般就労を行うことができ、その支援を関係機関と協力し実施しました。

2 生産活動の実施状況

(1) 受託作業

① 活動状況

- ・ Te 社のバリ取り、H社の宿泊アメニティの袋詰め、E社の粗品用ごみ袋セットを継続して取り組んだ。
- ・ 高速道路S Aの花の植え込み作業(1回)に参加した。
- ・ 2銀行のカレンダー巻き(年末)を行った。
- ・ 上市町のP社から依頼をうけ、7月によもぎの葉や茎の採集を実施した。

② 活動の成果等

- ・ ゲートカットは、生産量が低迷しているままであったが、受け入れ製品の性質から違う素材の製品を受け入れる際にはその都度計画的に作業場の清掃を行い、時間の無駄なく作業を継続的に進めるようにした。

(2) 自主製品

① 活動状況

- ・ 「贅沢なよもぎ風呂」の製作、販売
- ・ 滑川市のU園芸の指導を受けながら花苗2種類の育成と販売を実施した。
- ・ 四ツ葉園と協力体制のもと原木椎茸や野菜の販売を行った。また、独自の野菜の栽培も行い、同様に販売に繋げた。
- ・ 冬期間のよもぎ作業の減少期間に手芸品の製作を行い、製品に仕上げ販売を行った。

② 活動の成果等

- ・ 「贅沢なよもぎ風呂」は長雨や猛暑・熊の出没など採集作業に出かけられない日が多く、全体の生産量は昨年に比べ減少。545袋販売。また、消費税増税に伴い、パッケージ代など材料費の見直し等を行い、価格の見直しを行い取引先に案内を出した。
- ・ 四ツ葉園敷地内やつつみだにの家などで畑作業を行い、収穫した野菜を即売会等で販売し、収入に繋げた。
- ・ 花苗は、ペチュニア250個・ベコニア250個栽培し、約8割販売することができた。また、白萩西部地区の小学校・公民館・保育所に交流として利用者と共に花苗の提供を行うことができた。

- ・四ツ葉園と連携し、畑の野菜収穫や、椎茸栽培を行い販売した。
- ・農福連携事業のラベンダー畑作業に年間通して参加してきたが、参加できた時間が減り、今後の参加の仕方に課題が残るが、利用者の中では定着した活動になった。

《今後の目標課題》

- ・自主製品のよもぎを利用した新規商品の試作を行い品質の安定と一定量を生産できるようにする。
- ・畑や椎茸栽培・花苗の作業を行い、健康的な体作りと収穫の喜びを感じ取れるような取り組みを行いながら、工賃の低下への取り組みとして収入のアップに繋げる。

3 その他

(1) 就労支援

- ・1名就労希望があり、関係機関と連携を取り就労に向けた取り組みを開始。令和元年12月にチャレンジトレーニングを実施し、令和2年1月に一般就労することが出来た。

(2) 身辺生活

- ・通所時の身だしなみの確認、手洗いや、作業後の道具の洗浄を利用者とともに行うことで、清潔に関して意識できるよう働きかけた。そのため、利用者の意識付けになり、自主的な発言がみられるようになった。

(3) 安全な環境

- ・毎日の作業後は、作業環境の安全点検を職員が行い、備品の配置に留意した。
- ・日々の清掃の中で、配置や危険への注意を促すことで意識付けができた。

(4) 社会生活支援

- ・遠足は、のとじま水族館へ行き、日頃の仕事の疲れを癒す機会となった。一昨年7月の猛暑のなかでの実施だったため、6月に実施し、気候の良い中実施できた。
- ・社会生活体験(11月)はファボーレでの買い物と昼食を楽しんだ。買い物は事前に予算や購入したいものを各自考え、職員や保護者と相談し計画的に時間や予算を使うことを学ぶ機会となった。
- ・ポップサーカス観劇を行い、他のお客さんと共に楽しみ、公共のマナーを考える機会となった。
- ・即売に参加し、自主製品を販売する機会を持つことで生産意欲の向上と地域住民との触れ合いを通し働く喜びを感じる機会となった。

(5) 地域交流

- ・地域ふれあい交流会（滑川市東福寺自然公園）に参加して体を動かしたり、ゲームで協力し合いチーム力を高めたり、友人や知り合いとの再会に喜び合う機会となった。

（6）家族との連携

- ・懇談会や行事の際、保護者の思いを聞きとり支援を行い個別支援計画の作成に反映させることができた。
- ・毎月広報誌を発信し、活動の状況を保護者に伝えることができた。